



実 施 計 画 書

平成29年3月

かすみがうら市

（１）子どもミライプロジェクトについて

本格的な少子高齢化と東京一極集中による人口減少の進行が地方都市を衰退させると予測される中、本市では平成２７年度に人口動向の分析を行い、中長期の将来展望を示した「かすみがうら市人口ビジョン」、及び今後５か年の目標や施策、基本的方向をまとめた「かすみがうら市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

本市では、この戦略に位置付ける７つの重点プロジェクトのひとつである「子どもミライプロジェクト」の実現を目指して、地方創生交付金を活用した第２のふるさと・いばらきプロジェクト推進事業において「定住促進サポート事業」を実施しました。

この事業により、地元に住んでいるうちに故郷の魅力や実情を学びながら、地方創生の考え方や地域の取り組み等を学習する教育プログラムを構築し、未来のまちづくりを考えることができる人材を育成する「かすみがうら子どもミライ学習」に取り組みます。

また、市内で地域産業の担い手として活躍している若手事業者等により、「かすみがうら地域産業プラットフォーム」を組織化し、出前授業の講師等として協力いただくなど連携しながら取り組みを推進します。

（２）かすみがうら子どもミライ学習の目的

「かすみがうら子どもミライ学習」では、学校教育の中で、地域の実情や課題とまちづくりなどについて時間をかけて考える機会をもつとともに、地域に根ざして働いている大人の姿を見ながら地元での仕事や生き方を学び、地域の資源を活かしたものづくりに取り組みます。それにより、郷土を愛し誇りに思う心を育み、未来のまちづくりを考えることができる人材を育成することを目的とします。

さらに、このような学習を経て郷土への理解を深めた子どもたちにとって、進学や就職にあたるタイミングでの帰郷・定住の後押しになることを目指します。

（３）対象者

「かすみがうら子どもミライ学習」は、かすみがうら市内の中学校に通う中学生を対象とします。

（１）実施概要

総合的な学習の時間の年間カリキュラムの中で、計画的に講義・講演、現場見学、グループワーク、販売体験等を行います。

映像を利用した講義や地域で活躍する若手事業者等を講師とする**出前授業**の実施、また、農水産物などの地域資源の現場を見学し、それを活用した子どもたちによる**新商品プランづくり**の実施、さらに、実際に事業者等に依頼して新商品をつくり、**販売体験**を行うなどの３年間を通したプログラムとします。（平成２８年度は１年生のみ、平成２９年度は１年生と２年生の取り組みです。）

Step	内 容
＜１＞ 子どもミライ出前授業 テーマ：私のミライ 故郷のミライ 対 象：中学１年生	・市の現状や地方創生についての映像による講義 ・地元で活躍する若手事業者「地域で輝く仕事人」による仕事についての講演 ・グループワーク「将来のかすみがうら市のために 私たちができること」
＜２＞ 子どもミライワークショップ テーマ：市の資源を活かした 新商品の開発 対 象：中学２年生	・市の歴史や産業、地域資源などについての映像による講義 ・協力農家や協力事業者等の現場を訪問し、農水産物などの地域資源を見学 ・地域資源を活用した新商品プランをつくるため、ワークショップを実施 ・実際に事業者等に依頼して新商品をつくる
＜３＞ 子どもミライマルシェ テーマ：新商品の販売体験 対 象：中学３年生	・商品の販売等についての講義 ・完成した商品を市のイベントや市内のスーパー等に場所を借りて販売体験 ・市のホームページを通じて成果を発表

※毎年度、実施結果を検証し、見直し・改善を行いながら取り組みます。

(2) フロー（概要図）



(3) 学年ごとの実施内容

◆中学1年生◆

タイトル	子どもミライ出前授業
テーマ	私のミライ 故郷のミライについて考えてみよう
ねらい	かすみがうら市の現状や地方創生について学ぶとともに、子どもたちが自分の将来の夢や職業などについて考えることで、自分と故郷の未来を思い描きながら、暮らしている地域のことや自らの生き方について広い視野で考える力を育てます。

●第1回：事前学習 ≪2月≫

単元		内容等	指導者・講師等
①	ワーク 「10年後の自分」	・10年後の自分を想像して、ワークシートに記入する。 ・何の予備知識もない時点で、将来の夢や思いを自由に書く。 ・今後、学習していく中でのふり返りに使用する。	・担任教諭 (クラスごとに実施)

●第2回：2コマ（110分） ≪2月≫

単元		内容等	指導者・講師等
②	講義 「私のミライ 故郷のミライ」	・「子どもミライ出前授業」全体の説明。 ・各教室で、映像(DVD／約19分)により、市の現状や地方創生について学習する。 ※冊子「私のミライ故郷のミライ(地域で輝く仕事人含む)」(補助資料)を講演後に配布【20分】	・担任教諭 (クラスごとに実施)
③	講演 「地域で輝く仕事人」	・各教室に講師を1名ずつ配置。 ・「仕事の内容、仕事上の体験談、地域とのかかわり(地域で働く魅力、住む魅力)、市の魅力などについて」の講演を行う。【30分】 ・講演後、生徒との意見交換(質問タイム)を行う。【10分】	・地元の事業者 ・地域産業プラットフォームメンバー ・担任教諭のサポート (クラスごとに実施)

	休憩	【10 分】	
④	グループワーク 「将来のかすみがう ら市のために わた したちが出来るこ と」	・生徒同士や講師と意見を交換しながら、ワークシート(もしくは模造紙等)に記入する。 ・将来のかすみがうら市を元気に、住みやすく、魅力的なまちにするためのアイデアなどを考える。 ・アイデアや意見をグループごとにまとめる。 ・アンケートに記入する。 【30 分】	・担任教諭 ・③の講師 (クラスごとに実施)
⑤	成果発表	・グループごとに、まとめた意見等を発表する。 【10 分】 ・実施後、代表的な意見等を市のホームページへ掲載し公表する。	・担任教諭 (クラスごとに実施)

◆中学2年生◆

タイトル	子どもミライワークショップ
テーマ	市の資源を活かした新商品プランを考えてみよう
ねらい	地域資源などを学び、故郷の新たな魅力を見いだすとともに、その資源を生かす方策を考え提案することを通して、多面的にものを見る力や豊かな発想力を育てます。 また、自らの考えを集団の中で協力しながら、より良いものに発展させる力、及び聞き手に効果的に伝える表現力を育てます。

●第1回：4コマ（230分） ≪7月≫

単元		内容等	指導者・講師等
⑥	講義 「かすみがうら市の資源について」	・「子どもミライワークショップ」全体の説明 ・各教室で、映像(DVD／約 20 分)により、市の歴史や産業、地域資源について学習する。 (映像には、筑波山地域ジオパークに関連する学習を含む) 【20 分】	・担任教諭 (クラスごとに実施)
⑦	地域資源見学	・午前中に実施。 ・見学場所は1クラス2か所程度で、協力農家や協力事業者のリストから、学校ごとに事前に調整する。 ・2クラスで2カ所を借上げバスで交互に訪問。 ・圃場などを見学するとともに、活用してほしい資源等の話を聞き、新商品づくり(食品に限定)のアイデアを考える。 ・移動 【30 分】 ・地域資源見学(1カ所目) 【45 分】 ・移動 【30 分】 ・地域資源見学(2カ所目) 【45 分】 ・移動 【30 分】 ・学校到着後、見学した資源についての感想等をまとめ、新商品のアイデアを考える。【30 分】 (時間配分は、見学場所によりその都度調整) ※11月のワークショップまでを、各自いろいろな案を考えてみる期間とする。	・協力農家、協力事業者等 ・地域産業プラットフォームメンバー (クラスごとに実施)

●第2回：2コマ（110分） ≪11月≫

単元		内容等	指導者・講師等
⑧	ワークショップ(1) 「新商品プランを 考えてみよう」	・ワークショップの説明。 ・4～5人のグループを編成する。 ・各教室で、はじめに、商品企画・商品開発・商品デザイン等について、学生から講義を受け、学習する。【30分】 ・見学した地域資源を素材として、新商品プラン（食品に限定）をグループごとに考える。【20分】 ・ファシリテーターとして産業能率大学の学生1～2名を各教室に配置し、プランづくりがスムーズに進むようポイントを押さえて、教室を運営する。	・担任教諭 ・産業能率大学の学生 ・（地域産業プラットフォームメンバー） （クラスごとに実施）
	休憩	【10分】	
⑧	ワークショップ(1) 「新商品プランを 考えてみよう」	・見学した地域資源を素材として、新商品プラン（食品に限定）をグループごとに考える。【50分】 ・ファシリテーターとして産業能率大学の学生1～2名を各教室に配置し、プランづくりがスムーズに進むようポイントを押さえて、教室を運営する。 ※使用する教材やワークシートなどは、大学と相談して用意する。	・担任教諭 ・産業能率大学の学生 ・（地域産業プラットフォームメンバー） （クラスごとに実施）

●第3回：2コマ（110分） ≪11～12月≫

単元		内容等	指導者・講師等
⑨	ワークショップ(2) 「新商品を満足し てもらえる工夫を 考えてみよう」	・多くの人に満足してもらえるような工夫を加えながら、新商品プランづくりを行う。 ・グループごとに考えた新商品プランに基づき、商品企画書を作成する。【50分】 ・ファシリテーターとして産業能率大学の学生1～2名を各教室に配置し、プランづくりがスムーズに進むようポイントを押さえて、教室を運営する。 ※使用する企画書の様式などは、大学と相談して用意する。	・担任教諭 ・産業能率大学の学生 ・（地域産業プラットフォームメンバー） （クラスごとに実施）

	休憩	【10 分】	
⑨	ワークショップ(2) 「新商品を満足してもらえ工夫を考えてみよう」	・多くの人に満足してもらえるような工夫を加えながら、新商品プランづくりを行う。 ・グループごとに考えた新商品プランに基づき、商品企画書を作成する。 【20 分】 ・グループごとに新商品プランの発表を行い、クラス代表のプラン1案を選定する。 ・アンケートに記入する。 【30 分】 ・ファシリテーターとして産業能率大学の学生1～2名を各教室に配置し、プランづくりがスムーズに進むようポイントを押さえて、教室を運営する。	・担任教諭 ・産業能率大学の学生 ・(地域産業プラットフォームメンバー) (クラスごとに実施)

●第4回：1コマ(50分) ≪12～1月≫

単元		内容等	指導者・講師等
⑩	成果発表 「新商品プラン発表会」	・各クラス代表の新商品プランの発表を行う。 ・各プランについて、選考委員から講評を伝える。 ・各プランの順位付けはしない。 ・実施後、市のホームページへ掲載し公表する。	・選考委員： 校長、地域の人、保護者、 地域産業プラットフォーム、 産業能率大学生、筑波銀行、 商品づくりを想定する事業者 等 (学校ごとに実施)

●第5回： ≪12～1月≫

単元		内容等	指導者・講師等
⑪	新商品づくり依頼	・商品化できる可能性を考慮し、プランを1つ選定する。 ・商品づくりを依頼する事業者を選定する。 ・授業として実施しないため、生徒は参加しない。 ・「新商品プラン発表会」に引き続き、別室で協議する。 ・協力事業者と調整し、新商品を製造する。	・選考委員： 校長、地域の人、保護者、 地域産業プラットフォーム、 産業能率大学生、筑波銀行、 商品づくりを想定する事業者 等 (学校ごとに実施)

◆中学3年生◆

タイトル	子どもミライマルシェ
テーマ	新商品を販売してみよう
ねらい	実践を通して、働くこと・仕事・職業について考えるとともに、自分も地域社会を構成する一員であるという自覚を促し、人や地域と関わりあう力を育てます。 また、故郷が今後も魅力的に維持発展していくため、これからのかすみがうら市を担っていく意欲を育みます。

●第1回：1コマ(50分) ≪6～7月≫

単元		内容等	指導者・講師等
⑫	講義 「商品の販売等について」	・完成した新商品について、製造した協力事業者から披露する。 ・商品の特徴の説明。 ・体育館等で、専門家からの講義により、商品の売り方、PR方法などについて学習する。	・市内の事業者 ・創業支援セミナー講師 ・筑波銀行 等 (学校ごとに実施)

●第2回： ≪6～7月≫

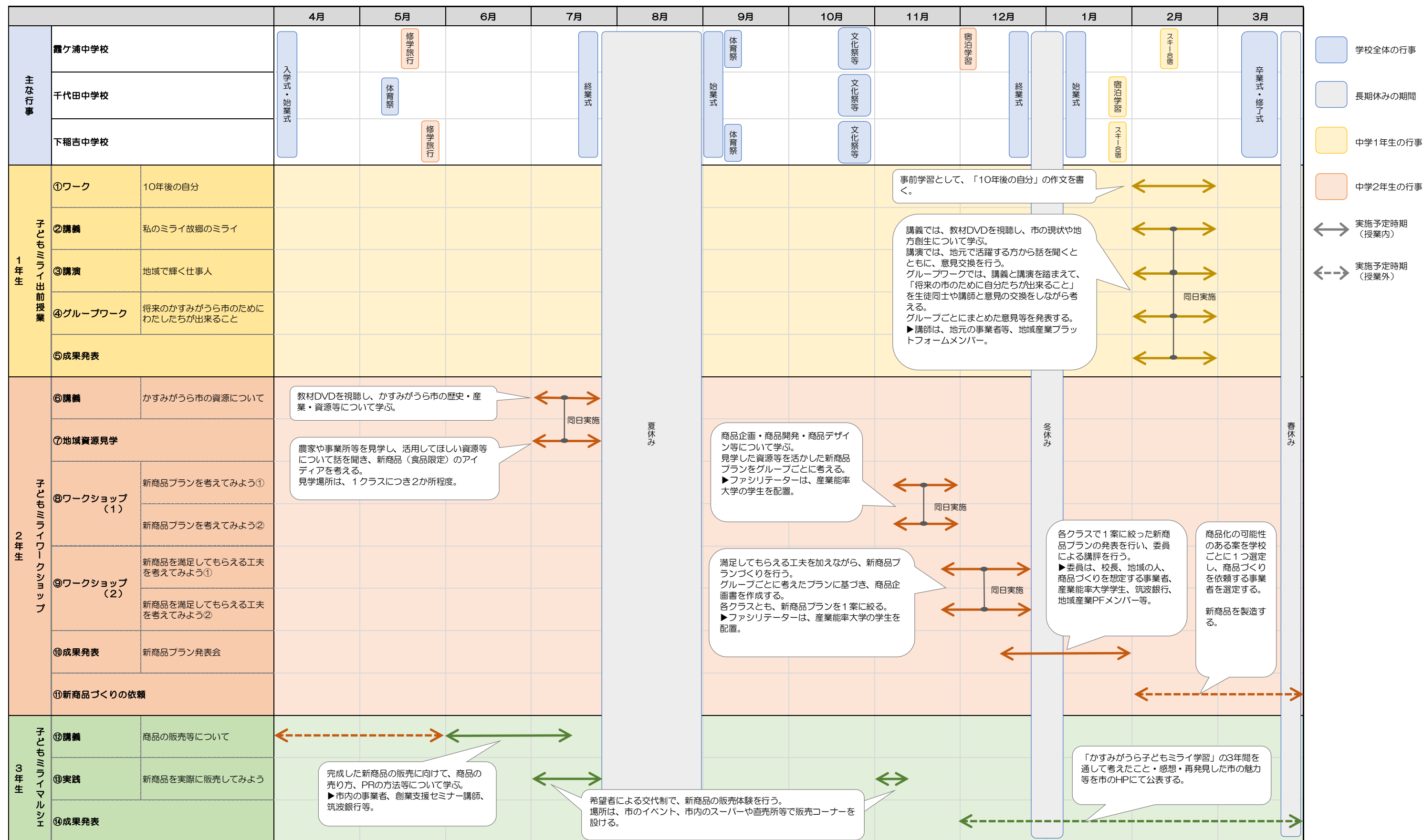
単元		内容等	指導者・講師等
⑬	実践 「新商品を実際に販売してみよう」	・市内の商店やスーパー、農協直売所等に依頼して、販売コーナーを設置し、販売する。 ・市のイベントに出店して販売する。 ・希望者により、週替わり、日替わり、時間を区切る等のローテーションを組み、交代で販売体験等を行う。 ※(案)千代田中：かすみがうら祭で販売 TENT を設ける。(11/3) 下稲吉中：ヨークベニマル、農協直売所等で販売コーナーを設ける。 霞ヶ浦中：農協直売所、かすみマルシェ等で販売コーナーを設ける。	・販売場所：市内の商店、スーパー、農協直売所、かすみキッチン市のイベント 等 (学校ごとに実施)

		・販売に当たっては、実際に金銭の授受を行う。 ・実施日は、休日を想定。 ・移動手段の検討が必要。	
--	--	--	--

●第3回： 《9月以降》

単元		内容等	指導者・講師等
⑭	成果発表 「市のホームページで公表」	・販売体験の感想等や「かすみがうら子どもミライ学習」を通して考えたこと、再発見した市の魅力などについての作文等を、市のホームページへ掲載し公表する。 ・作文等は、夏休み中に作成する。	

□かすみがうら子どもミライ学習の3年間のスケジュール



4

実施体制

本事業の実施体制は以下のとおりとし、必要に応じて拡充するものとします。

	主体	担当する内容
統括	かすみがうら市	事業全体の統括・管理
実施 主体	霞ヶ浦中学校	事業全般
	千代田中学校	事業全般
	下稲吉中学校	事業全般
協力	かすみがうら地域産業プラットフォーム	出前授業・ワークショップ等への協力
	市内の農家、事業者等	地域資源見学、新商品づくり等への協力
	産業能率大学、筑波銀行	ワークショップ等への協力
	市内の商店、スーパー、農協等	新商品販売等の協力

（１）教材の取り扱い

本学習では、以下の教材等を使用します。

なお、講師によっては独自の教材を使用する場合があります。

- ・概要版『かすみがうら子どもミライ学習』（３年間）
- ・教材冊子『私のミライ 故郷のミライ』（３年間）
- ・教材DVD『私のミライ 故郷のミライ』（中学１年生）
- ・ワークシート『１０年後の自分』（中学１年生）
- ・ワークシート『将来のかすみがうら市のために わたしたちが出来ること』（中学１年生）
- ・教材DVD『かすみがうら市の資源について』（中学２年生）

（２）出前授業について

地域で活躍する方の実体験に基づく話を聞くことで、働くことや仕事を考えること、地域社会と関わることへの意識が生じます。生徒の興味が芽生えることを目指して、以下の内容で「地域で輝く仕事人」の講演を行います。

- ・仕事の内容（実際に仕事で使っている道具や商品等を手に取れると効果的）
- ・仕事でやりがいを感じたこと、印象に残っていること
- ・地域とのかかわり（市内で仕事をする魅力、住む魅力）
- ・生徒へのメッセージ

（３）地域資源見学について

市内の農水産物などの地域資源について、実際に生産されている場所等を見学するとともに、生産者等から直接話を聞くことで、資源に対する明確なイメージをつかむことができるよう以下の観点で見学を行います。

- ・資源の歴史、由来
- ・資源の生成について（栽培・収穫等）
- ・資源の特徴や魅力
- ・資源を活かした商品について
- ・資源の問題点、課題



校外学習のため、生徒の安全への配慮及び協力者への配慮が求められることから、十分な協議を行う必要があります。

(4) ワークショップのファシリテート

中学2年生では、「市の資源を活かした新商品の開発」というテーマでワークショップを実施します。アイデアが活発に出されるように、また、気づきが得られるように促すファシリテートに努める必要があります。

【ワークショップの進め方（参考例）】

■テーマ（1）：「新商品プランを考えてみよう」

□ファシリテーター：産業能率大学の学生／補助：担任教諭

□実施内容：以下の項目について生徒同士やファシリテーターと意見の交換を行い、新商品プランを検討する。

- ・「活かす資源の魅力は？」
- ・「資源の現在の問題点は？」
- ・「資源の魅力を活かして、問題点を解消するためには、どんな商品が良い？」



□実施手順：①大型付箋紙に「資源の魅力」を書いていき、A1の模造紙の左半分を2分割し、上半分に付箋紙を貼り付ける。

②大型付箋紙に現在の「資源の問題点」を書いていき、下半分に付箋紙を貼り付ける。

③模造紙の右半分に、資源の魅力を活かしつつ、問題点を解消するための「新商品プラン」を書いていく。

□ファシリテーターの動き：

各グループを回り、意見交換の様子をうかがう。

活発に意見交換が行われているグループでは、提案内容が深まるように新たな視点についてアドバイス等を行う。

静かなグループでは、「資源の魅力はなに？」、「問題点はどこだと思う？」、「どんな商品がいいかな？」等丁寧に話を振っていく。

■テーマ（2）：「新商品を満足してもらえる工夫を考えてみよう」

□ファシリテーター：産業能率大学の学生／補助：担任教諭

□実施内容：以下の項目について生徒同士やファシリテーターと意見の交換を行い、新商品を満足してもらえる工夫を検討する。

- ・「商品の販売ターゲットは？」
- ・「どんな時に食べてもらいたい？買ってもらいたい？」
- ・「どんな商品だったら満足してもらえるかな？商品の具体的な内容・形・パッケージ・商品名等を考えてみよう！」



- 実施手順：①A 1 の模造紙の左半分を 2 分割し、上半分に「商品の販売ターゲット」を列挙する。
- ②模造紙の下半分に、「どんな時に食べてもらいたいのか、買ってもらいたいのか」シチュエーションを考えて列挙する。
- ③「商品名、具体的な内容、形、パッケージ等」を検討し、模造紙に絵と文章で表現する。 ➡ 発表に向けてまとめる。
- ファシリテーターの動き：
- 各グループを回り、意見交換の様子をうかがう。
- 活発に意見交換が行われているグループでは、提案内容が深まるように新たな視点についてアドバイス等を行う。
- 静かなグループでは、意見が出るように生徒に話を振っていく。

（５）成果発表について

協力してつくりあげた提案を聞き手に効果的に伝える表現力を育成していきます。

中学１年生では「出前授業」や「グループワーク」を通して考えた内容について発表を行い、中学２年生では「地域資源見学」や「ワークショップ」によって創作した新商品プランについて発表を行います。そして、中学３年生では販売体験の感想や「かすみがうら子どもミライ学習」の集大成として３年間を通して感じたこと、再発見した市の魅力等を公表します。

中学２年生の成果発表では、学校ごとの新商品の決定に向けた発表となることから、校長や地域の方々、保護者、商品づくりを想定する事業者等から構成される選考委員による講評を行います。新商品の講評においては、以下の観点を基に行います。



- ・意欲的に取り組んでいる。
 - ・魅力や問題点を的確に捉えた商品となっている。
 - ・魅力的な商品、満足してもらえるような工夫が感じられる商品となっている。
- ※講評の際には、商品プランの優劣を付けることはしない、また、プランを否定するような発言は行わないこととする。

（６）新商品づくりについて

選考委員により構成される会議において、学校ごとに実現可能性のある新商品プランをひとつ選定し、協力事業者へ商品づくりを依頼します。新商品づくりの期間は、３～４か月を目途とし、中学３年生の最初の授業において、完成した商品を発表します。

(7) 新商品の販売の実施

完成した新商品は、商品の開発者として生徒たちが実際に販売を行うことで、「消費者との関わり」「働くこと」「お金を稼ぐこと」の楽しさや大変さを体験します。

【新商品販売の進め方（参考例）】

■テーマ：「新商品を実際に販売してみよう」

□同行者：担任教諭／補助・協力：イベント主催者、協力事業者

□実施内容：①商品の陳列

・どうしたら消費者が手に取りたくなるか、商品が魅力的に見えるかを考えながら、陳列の工夫をする。

②宣伝

・イベントやお店等に来ている消費者に対して、商品の特徴を話すなど効果的な商品の宣伝を行う。

③販売

・消費者と交流しながら、お金のやり取りも含めた商品の販売を行う。

□販売方式：中学校ごとに実施し、週替わり、日替わり、時間を区切る等のローテーションを組む、又は係を分担するなどによって実施する。

各中学校の3年生の希望者が交代で販売体験を行う。

〈例〉
1班 13時～14時 2班 14時～15時 3班 15時～16時 4班 16時～17時

